



2022年5月24日

運用ポートフォリオにおける温室効果ガス排出量削減に係る2025年目標の設定

第一フロンティア生命保険株式会社(代表取締役社長:武富 正夫)は(以下、「当社」)、運用ポートフォリオにおける温室効果ガス(以下、「GHG」)排出量削減に係る2025年目標を設定致しましたので、お知らせします。

当社は、資産運用分野におけるESG取組みを通じて、中長期的な投資リターンの獲得と社会課題の解決への貢献を目指しています。

今般、取り組むべき重要課題である気候変動対応への一環として、2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、運用ポートフォリオにおけるGHG排出量削減に係る2025年目標を設定致しました。

<目標>

指標	目標水準	基準年
保有1単位当たりのGHG排出量(インテンシティ) ¹	▲15%(2025年3月末)	2021年3月末対比

指標については、運用ポートフォリオの残高増減に左右されず、実体的な削減取組みを表すのに適した指標として、「保有1単位当たりのGHG排出量(インテンシティ)」を採用します。

目標水準については、2050年までの排出量ネットゼロに向けた当初4年間のマイルストーンとして設定しています(以降5年毎に目標を設定する予定)。

<対象資産>

排出量データが把握可能な「国内外の社債」とします。また、対象範囲(scope)²はscope1、scope2とします。

<施策>

目標達成に向けては、ESG対話を通じた、投資先企業が掲げる削減目標の達成促進、および更なる削減の後押しを軸とします。従前より当社は、建設的な対話を実施しており、世界的なイニシアティブである「Climate Action100+」にも参画しております。今後も対話を推進するとともに、特に排出量の多い投資先に対しては、目標設定水準の引き上げを促してまいります。

また、企業の脱炭素化に向けては、金融面からのサポートが必要と考えております。そのため、当社は対話の実施だけではなく、運用収益の確保を前提とした上で、トランジションボンド等への積極的な投資により、低炭素社会への移行に向けた資金供給も実施してまいります。

なお、2050年に向けて、社会全体で低炭素化を目指していく必要があると考えていることから、排出量の多い企業への投資抑制等については補完的な方策と位置づけ、企業の取組計画や進捗を中長期的な目線で確認の上、検討します。

¹ 運用ポートフォリオの排出量 ÷ 運用ポートフォリオの残高(運用ポートフォリオの排出量は、投資先の排出量のうち当社持ち分相当を合計して算出)。

² scope とは、GHG プロトコルが定める、事業者の GHG 排出量算定報告基準における概念であり、以下を指す。

- ・scope1: 事業者自らの直接排出
- ・scope2: 他社から供給された電気などの使用に伴う間接排出
- ・scope3: scope1・2 以外の間接排出(=自社の活動に関連する他社の排出)

本目標に向けたポートフォリオ運営の高度化・投資先企業の変容促進は、安定した運用収益の確保、ひいては社会全体の持続可能性向上に資する取り組みと認識しております。今後も引き続き、責任ある機関投資家として ESG 取組みをより一層推進してまいります。

【本件と関連性の深いSDGs目標】



以上